

のりしろ

易して不持ふちいられ所ところ此こゝ夜よ南みなみと
 於お歴れきの所ところに持も来きいへむ南みなみ摩ま
 のは社やしろへ志こころ願ねがひの所ところに寄よ進すすのやもこれあり
 且かつい先さき年とし南みなみは所ところ安やすくは後ごを合あ例れいふあり
 又またい法はふ天てんのほ一いち後ごふ備そなへてい関けふ時ときに
 第一だいいち長なが寿しうふへ福ふく地ち所ところ増ぞう長なが一いち疫やび病びやうと
 けり然しかといふへり云いふはさうりなり
 若し作しや合あ所ところに安やすくは来きるを来きりて
 其そのまの一いち助すけも亦また成なりるの幸さいひと
 僭せん主しゆの詔みことにも法はふ天てんのこゝに
 とし福ふくふふれん

天保十年
亥年四月



謹白

抑々人魚は縁ハ實屬七奈周年奥海松前のおく飛夷の
 漁人系に付時海上より其沖へ漁ふ出に任中うみ
 出さるはありありとて其丈三人餘り熱身ハ魚トイ
 かしら小児の如くいまう不思議の事や此網とむんと
 する彼魚もと合せがらとて其作よりむらり不便
 せむはとけ得やふさふさして大不意にうみより
 言渡りぬぐ人間も夫より彼漁師大不意腹にて
 網を引上テ諸人おとせしむる是れん
 昔より人魚なんなり珍しき魚ふれ
 其後乾おとれうみ漁師のたまふれ
 ども遠都のゆへに候ふりふまて保
 己年能程の國の未諸用にりて彼徒
 りりともうり周縁ふ古の人魚を文

